厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）
（分担研究報告書）

全国がん登録と連携した臓器がん登録による大規模コホート研究の推進及び高質診療データベースの為のNCD長期予後入力システムの構築に関する研究

（研究分担者　今村将史・札幌医科大学消化器・総合、乳腺・内分泌外科・講師）

研究要旨
「がん登録を利用した医療情報の発信に関する研究」について、現行の主ながんデータベース(院内・地域がん登録、NCD、臓器がん登録)の現状と、全国がん登録開始後の優位点と今後の展望に関して提案した。全国がん登録との連携・利用により、がん罹患状況を正確に把握することが可能である。ガイドラインの検証に関しては、「がん登録」と「臓器がん登録」の登録情報の突合やNCDシステムの導入で、より正確で科学的な検証が可能になる。また、NCDに実装されたがん登録において登録施設数や登録症例数の増加を認め、NCDとの連携によるデータの質の向上が期待されるが、個人情報保護法によるシステム化の困難性が解決すべき課題と考えられた。

A．研究目的

がん登録を利用した医療情報の発信に関して、現行の主ながんデータベースとの連携と今後の展望について考察する。また、本邦におけるがん診療ガイドラインの検証動向の現状を報告し、全国がん登録開始後の優位点と今後の展望に関して検討する。

B．研究方法

①院内がん登録、地域がん登録、NCD、臓器がん登録の現状を把握し、がん登録の利用による優位点と今後の展望、がん登録利用上の課題点を検討する。
②平成28年度11月に、「がん」に関するガイドラインを公表している28学会・研究会を対象として、「診療ガイドライン関連」、「COI関連」、「がん登録関連」、「臨床研究・分析事業関連」、「情報倫理関連」、「財務関連」に関してアンケートを実施した。その中の「がん登録関連」の結果を中心に分析した。

C．研究結果

①個々の登録では、悉皆性、データの重複、長期予後の把握、診療動態の変化など、情報の正確さに限界がある。がん登録の利用により悉皆性と予後情報の精度は上がり、データ重複の問題点も解決される。NCDや臓器がん登録との連携によりデータの質の向上に期待がもたれる。課題点としては、データ連携における法的整備、データ入力・管理・分析などが課題点として挙げられた。
②臓器がん登録を実施している学会・研究会は約70%であった。臓器がん登録を実施していない背景・理由としては資金不足や人材不足といった問題点が挙げられた。また、臓器がん登録内容の精度管理上の課題としては、多くの学会・研究会から、管理体制、資金不足、人材不足が挙げられた。

D．考察

①がん登録とNCD、臓器がん登録データの連携・利用により、データの質の向上に繋がり、診療動態変化の評価が可能となる。また、がん罹患状況を正確に把握することが可能となり、そのデータを国民・医学研究者・行政と共有することで、学術的・社会的貢献が可能と考えられた。
②全国がん登録、臓器がん登録、NCD登録の連携により、より正確ながん罹患状況の把握が可能となり、国家的がん対策、地域医療計画、がん検診の計画と評価、がん罹患動向予測、国際比較へと応用しうる。また、国民・医学研究者・行政とのデータ共有により、生存分析や罹患情報を医学研究へ活用可能となり、国民が医師と治療方針を決定する上での重要な情報になると考えられる。

E．結論

がん登録を利用した医療情報の発信に関しては、現行のがんデータベースとの連携が不可欠であり、その法的整備を含めた解決により学術的・社会的貢献が図れるものと考えられる。
がん登録の現状と今後の展望としては、全国がん登録、臓器がん登録、NCD登録の連携によるデータの質の向上が期待され、それによって、より正確にがん罹患状況の把握が可能となり、国民の医療や医学研究への活用にも繋がるものと考えられた。また、個人情報保護法によるシステム化の困難性が解決すべき課題と考えられた。